



第4回 日本サイン デザイン協会賞

1 特別賞 銀座 資生堂を中心とした1668年度の全サインに対するサインポリシーおよびデザイン〔五反田・教育センター〕2 B類銅賞 NEC 3 A類銅賞 大日本印刷 4 A類銀賞 TOPPAN 5 A類金賞 NISSHA





第4回SDAの審査を終えて

竹岡リョウ

今年度の20点の入賞作品は 約 650点の作品の中から選ばれたものだが その結果から3つの特長をあげることができる。

まず第1に 特別賞に入賞した一連の資生堂のサインの ポリシーの一貫性とデザイン密度の高さがあげられる。これは銀座・本館 五反田・教育センター それに横浜・中央研究所と それぞれ異った環境で それを見せる対象の性格に大きな違いがありながら 全体に“資生堂”のイメージを貫いている。

これは同社のデザイン・スタッフの充実があげられる ことはもちろんであるが サインに対する企業の十分な理解があるからには かならない。今後とも充実した作品を期待したい。この資生堂のサインが今年度の屋外関係の賞を一手にさらった華やかさに対して 地味な小形サインではあるが C類金賞の“ワコール”の入賞にも重要な意味がある。デザイナーの早川良雄氏の名声と実績は 今さらのべるまでもない。SDA賞でも第1回・銀賞の“G線”第2回の金賞“ワコール”のサインに続いて 今回の受賞である。

今回の作品は 今までのサインの観念をまったく打ち破ったもので 彼の自由奔放なイメージの豊かさがにじみ出ているものといえる。この傾向は 繁華街におけるサインの機能ととりくんだ “G線”から一転した 昨年度の“ワコール”の花かごのサインから見られる いわばストリート・ファニチュアとしての性格を強く持ったサインであり 今後の小形サインに対する良い意味での影響が大きいと思う。

以上の本年度の収穫とは逆に われわれの市民生活にもっとも大きな影響を与える公共サインの不振もまた 今回の大きな特長といえよう。

東京・八重州地下街が 都市再開発の核として華ばなくオープンしたが 同時にその中の公共サイン類の分りにくさ 不便さが各ジャーナリズムに一齐に指摘されたことも 記憶にまだ新しいことと思う。このようなサインが突然の災害に対する市民の生命の安全に もっとも大きなかわりのあることは 最近頻発したホテルの火災などからも理解されよう。

したがってこの問題を 当事者やサイン関係者だけのものとしてではなく われわれ全体の生命にかかわる問題として受けとめ これからの公共サインの充実におたがいに努力していこうではありませんか。(日本サインデザイン協会会長 第4回SDA賞審査委員長)

受賞作品

A類金賞 NISSHA 京都・中京区 ad・池亀暢雄 d・朝日電装設計部 m・朝日電装 c・日本写真印刷 p・朝日電装

A類銀賞 TOPPAN 東京・台東区 ad・d・トッパンアイデアセンター c・凸版印刷 p・扶桑ネオン電気 西京都信用金庫 京都・右京区 ad・西京都信用金庫総務部 d・白石和夫 c・西京都信用金庫 p・日広社ワールドネオン

A類銅賞 ビアス 大阪・大淀区 ad・d・岡本省吾 m・大阪クロードネオン電気 c・ビアス p・大阪クロードネオン電気 大日本印刷京都・右京区 ad・本多英男 d・益子俊悦 c・大日本印刷京都事業部 p・第一ネオン京都支店 ニチレイ 東京・中央区 ad・d・タイガー商事企画部 南沢順三 c・日本冷蔵 a・タイガー商事 p・タイガー商事

B類銀賞 CANON d・朝日電装 c・キャノンカメラ p・朝日電装 VICTOR 東京・中央区 ad・竹岡リョウ d・伊藤隆三 c・日本ビクター p・富士電工 CBS・SONY 東京・港区 ad・大賀典雄 金井浩 d・ソニーデザイン室 CBS・ソニー企画制作部デザイン室 m・ネオライト c・CBS・ソニーレコード p・ネオライト

B類銅賞 駿河銀行 熱海駅前 ad・室実弥子 d・松本繁 c・駿河銀行 a・ニュースタジオ p・東京ネオン NEC 京都・上京区 ad・d・新日本電気営業本部宣伝課 c・新日本電気 a・p・日新 SANYO 別府市 d・福田成美 c・三洋電機 p・阪急電機工業 CocaCola ad・d・日本コカコーラ広告部 c・日本コカコーラ広告部 p・巴弘告社

C類金賞 ワコールティーサロン ad・早川良雄 d・高見慧 c・ワコール p・光和製作所 矢橋大理石商店

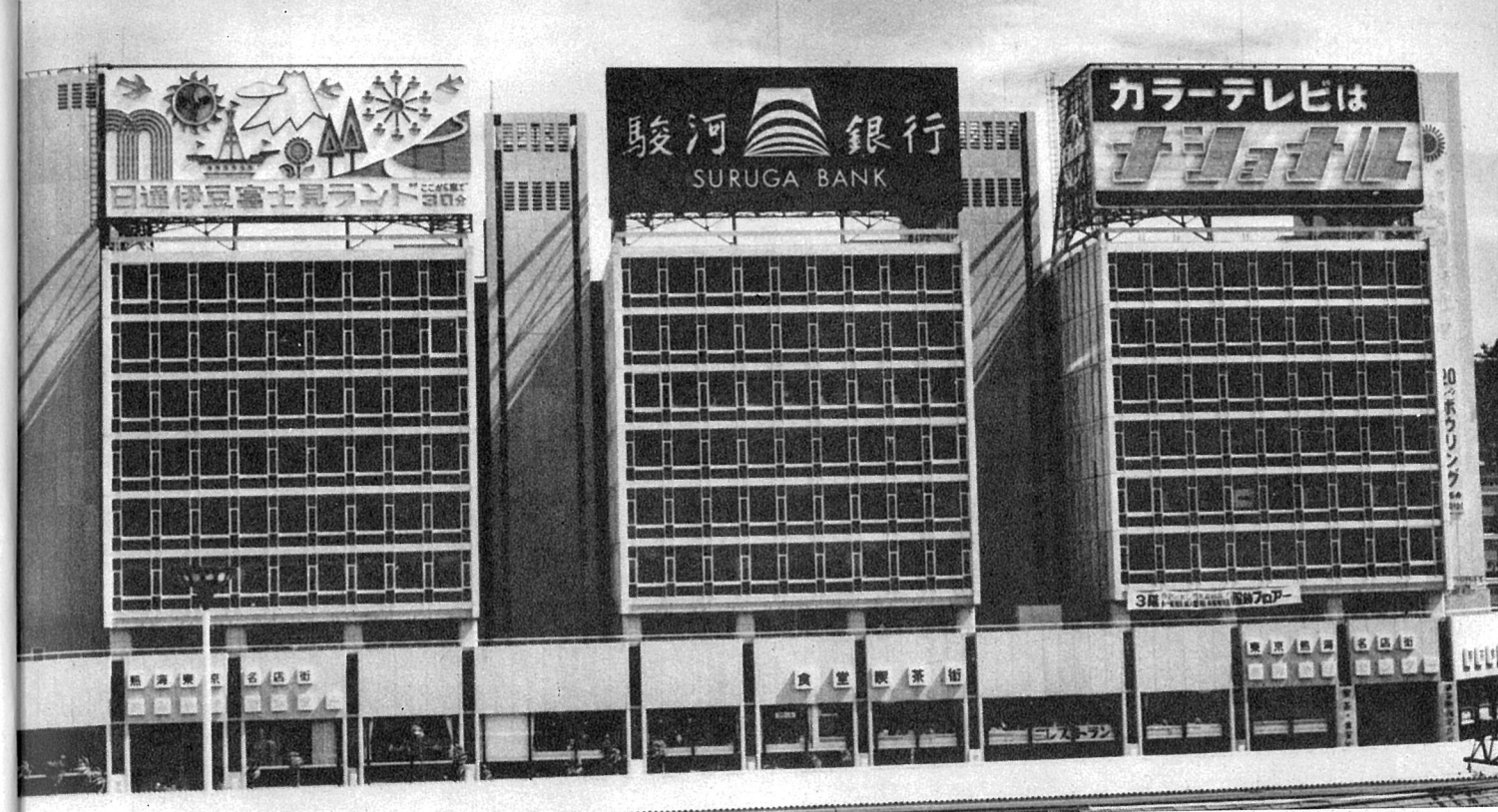
C類銀賞 Blue Gardenia ad・d・安藤松太郎 c・東京プリンスホテル p・新東工芸 西武デパート入口総合標識 東京・渋谷区 ad・沢田吉宏 岩崎克美 d・魚成祥一郎 市川茂男 野島雅宏 c・西武百貨店 p・乃村工芸社

C類銅賞 Cocopalms 東京・港区 ad・益子栄 d・宮地亮 c・益子栄 p・アドセンター宮地 CAPTAIN ad・d・水地信一郎 c・井上香代子 p・中立造船建設工業 LAST 20 CENT 東京・港区 ad・菅野諒 d・計良勝雄 c・日本レジャー開発 p・GUNオリジナル

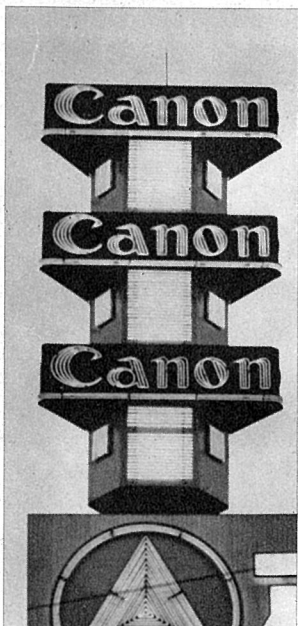
特別賞 銀座・資生堂サインを中心とした1968年度の全サインに対するデザインポリシーとデザイン ad・宮河久 d・花内勇 金森利文 m・小川植造 c・資生堂 p・東京クロードネオン電気 葵工芸



6



7



8

- 1 特別賞 銀座・資生堂を中心とした1968年度全サインに対するサインポリシーおよびデザイン：ロケーションや設置される目的によってデザインは変えられているが、サインポリシーとしては企業イメージ、ビジュアルイメージとも同一化され、トータルとしてのデザイン作業に賞が与えられた。表現はネオン管を中心にカラフルであること。また銀座の作品は部分的にサイン球を効果的に使用しています。色彩はブルー系とピンク系の2色とホワイトでまとめられ、場所によってバイオレット系もとり入れられています。
- 2 B類銅賞 NEC：NECが表面塩ビ乳白で内部より7色のネオンで虹のイメージを出しています。バックは黒で上下ボーダーラインはネオン。
- 3 A類銅賞 大日本印刷：4面のボックス体で2面がブルーの立体パターンで下部より照明され、大日本印刷は白色ネオン管。他2面は白バックにマークは赤ネオン。
- 4 A類銀賞 TOPPAN：建築のアイボリーに対してブルーを基調としていてスマートさがあり、このブルーと間接照明がマークとTOPPANの裏側から照射されクールな感じを出している。
- 5 A類金賞 NISSHA：マーク NISSHAは白、文字厚みの部分は赤。日本写真印刷は夜間間接照明。建築との有機性が高い。
- 6 A類銀賞 西京都信用金庫：建築自体が日本の感覚をもち、タイルのダークな色彩に調和させるためサインも同調させている。シンプルで白の文字にダークブルーのバックカラーで建築とサインがとけあっている。
- 7 B類銀賞 CANON：フォルムが変化され、それぞれ赤・青・緑の3色に分かれている。照明は全部ネオン管。

9 10



11

- 8 B類銀賞 CBS・SONY：4面塔体でそれぞれCBS・SONYのロゴタイプで処理されている。ロゴタイプはホワイトとスカイブルーで夜間もこの2色のネオンでシンプルなイメージを出している。
- 9 B類銅賞 SANYO：バックが蛍光塗料の赤で、SANYOはネオンでU型フレームは白色ネオン管。側面は白バックに水銀灯照明。文字はネオン管。
- 10 A類銅賞 ニチレイ：倉庫の窓のない壁面を十分計算に入れて、壁面ストライプとサインを有機的にむすびつけている。文字はネオン管。
- 11 B類銅賞 駿河銀行：バックはブラックに近いブラウン。マークと和文、英文社名は金色タイコ文字で下部より白熱灯で照明している。建築の窓のパターンに対してシンプルな効果が対比的。
- 12 B類銅賞 Coca Cola：英文ロゴタイプを中心に、白と赤のネオン管を面で見せるようにぎっしりと詰められ、点滅で動きを出している。SP広告、パッケージのイメージとの関係づけが効果的。
- 13 B類銀賞 VICTOR：周囲競合サインとの差別化のためにダイナミックな表現をとっている。マークはネオン管でバックのステンレス上に放射線状にサイン球とネオン管で回転点滅している。VICTORのロゴタイプはアウトラインをサイン球、内部はネオン管。
- 14 A類銅賞 ピアス：英文と和文を4面にそれぞれレイアウトし、ブルーとピンクのペアーでバックはネオン管を全面に配列している。ロゴタイプは白のネオン管。広告スペースの足部は建築的要素で処理しており美しい。夜間は水銀灯で照明している。
- 15 特別賞 銀座・資生堂

14



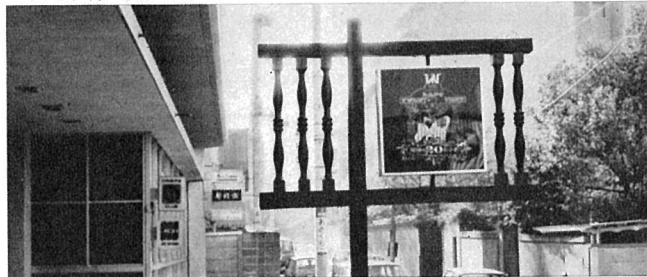
12



13

15





17

16 C類金賞 ワコールティーサロン：大理石と真鍮金メッキ。そして電球で処理している。文字は大理石のエッチング。

17 C類銅賞 Coco PalmS：入口の左側はアクリアンドン形式でロゴタイプはグリーン。太陽はオレンジ。入口上部より吊り下げたパネルはクリアラッカー仕上にペイント塗装。色はアンドンと同じ。

19

18 C類銀賞 Blue Gardenia：スタンド形式でカラーコルトンを使用。ホワイトブロンズのフレームで表面はアクリ。

19 C類銅賞 LAST 20 CENT：ボールサイン形式でパイプにクリ棒でフレームに装飾性を出し。ロゴタイプの部分はアクリ乳白とブラック。内部の蛍光灯照明でサバクラブのムードを出している。

20 C類銀賞 西武デパート入口総合標識：板金加工による焼付けとメタリック焼付けで文字は打ちぬかれアクリ乳白で内部より蛍光灯照明され。全体的にはデコラティブで装飾性のあるムードを出している。

21 C類銅賞 CAPTAIN：ファサード全体が木目で文字はエッチングされ塗料がながしこまれている。

20

21

第4回SDA賞審査経過 伊東和也

第4回SDA賞は1968年度内に施工され完成された作品のみが応募に該当されるのが条件になっていますが、前年度に完成された作品の応募があり合議の末、審査されることを決定しました。今年度も例年同様に日本SDA傘下の各地区SDA（東京・中部・大阪・京都・中国・九州）に集められた作品が各地区において第1次選考され、この第1次に入選した作品が日本SDAによる最終審査に提出され、SDA賞の決定が行なわれました。最終審査は東京サインデザイン協会会議室において5月31日行なわれました。

応募点数は全国から集められた作品650点で、最終審査に残った150点より入賞作品をしばらく20点の入賞作品を決定しました。

部門は次の通り

A類 自社建築物に設置したサイン

B類 賃貸媒体に設置したサイン

C類 店頭小形サイン

D類 公共サイン

特別賞

最終審査の審査委員はSDA以外の外部審査委員として、浜口隆一氏、早川良雄氏、伊藤憲治氏（当日欠席）に依頼し、2氏出席のもと、SDA側からは竹岡リョウウをはじめ、各地区SDA委員長、副委員長、および日本SDA事務局長によって審査委員が構成されました。

集められた作品の全体的傾向としては、A類B類が比較的低調であったこと、それに対してC類の全体的レベルが高まり、それぞれの格差が無くなってきていることはこの数年感じられるが、今年はとくにその差がなくなりました。D類は今年該当作品がないのがさびしく、特別賞としては、銀座資生堂を中心とした1968年度の全サインに対するサインポリシーとデザインに賞を決定しましたが、これ

は当協会としての理念を表明しようとするもので特別賞がもうけられています。

今年は関西地区の入選が多かったのはやはり万国博の影響があると思います。

A類は自社建築物に設置されたものであるためコーポレートイメージと建築との有機性が要求されています。最後に残されたのはNISSHAとTOPPANでTOPPANはサイン自体も美しく、建築との関係も良かったが、NISSHAの作品がより建築との有機性に富んでいる点、金賞に決まりました。またユニークな点では西京都信用金庫があげられ、日本的な建築で色彩的にもシックな中にサインがとけこんでいる点を評価され銀賞にとりました。

B類は一番はなばなしい部門ですが、今年は低調で金賞は該当作品がないため銀賞と銅賞を3点ずつ選びました。造形的なCANON、ダイナミックなVICTOR、シンプルなCBS・SONYといったそれぞれ異なったエレメントによって選出されました。また銅賞のCoca Colaは数多い作品の中でも戦略的な市場アピールという点で入賞し、赤と白のシンプルな中でロゴタイプの美しさが評価されています。C類はもっとも点数が多く接近戦で、ワコールティーサロンが今までの概念を打破した大理石のエッチングにテーブルとスタンド・椅子といったストーリーがあり、企業イメージを適確にサインで表現できた点で金賞に申し分なく選ばれました。銀賞以下は混戦で、まったくその差がなかったといえます。

D類の公共サインは、今回作品がほとんどなく、そのため選出できなかったのはやはりさびしかったようです。

特別賞は資生堂のイメージづくりすなわちポリシーですが、このポリシーがそれぞれ異なりながらもポリシーを正確につくりあげた点に特別賞の価値感あり入賞しました。